

令和元年度

事業報告書

(平成31年4月1日から令和2年3月31日まで)

学校法人 高野山学園

目 次

I. 法人の概要	P1
1. 法人の目的	P1
2. 設置する学校の所在地等	P1
3. 設置する学校・学部・学科等	P2
4. 入学定員及び学生数	P2
(1) 高野山大学	P2
(2) 高野山高等学校	P3
(3) 高野山幼稚園（高野山こども園）	P3
5. 役員・教職員数	P3
(1) 役員	P3
(2) 教職員数	P4
II. 事業の概要	P5
1. 高野山学園法人本部	P5
2. 高野山大学	P6
3. 高野山高等学校	P17
4. 高野山幼稚園（高野山こども園）	P31

I. 法人の概要

1. 法人の目的

この法人は、教育基本法及び学校教育法に従い、仏教精神に則り、大学、高等学校、その他の教育施設を設置し、社会に貢献できる有能な人材を育成することを目的とする。(『学校法人高野山学園寄附行為』第3条)

2. 設置する学校等の所在地等

設置する学校等	所在地	事業所長
高野山学園 法人本部	〒648-0280 和歌山県伊都郡高野町高野山 385 番地 TEL : 0736-56-2922	本部長 : 芝田 啓治
高野山大学	〒648-0280 和歌山県伊都郡高野町高野山 385 番地 TEL : 0736-56-2921 (代)	学長 : 乾 龍仁
高野山高等学校	〒648-0288 和歌山県伊都郡高野町高野山 212 番地 TEL : 0736-56-2204 (代)	校長 : 小野 芳幸
高野山幼稚園 (高野山こども園)	〒648-0211 和歌山県伊都郡高野町高野山 26-5 番地 TEL : 0736-56-2320	園長 : 佐々木基文

3. 設置する学校・学部・学科等

学校名	学部等		
高野山大学	文学部	密教学科、人間学科	
	大学院	文学研究科	密教学専攻修士課程・博士後期課程
			仏教学専攻修士課程・博士後期課程
			密教学専攻修士課程（通信教育課程）
別科			
高野山高等学校	全日制課程 普通科		
	全日制課程 宗教科		
	広域通信制課程		
高野山幼稚園（高野山こども園）			

4. 入学定員及び学生数（令和元年5月1日現在）

（1）高野山大学

	学科名	入学定員	入学者数	収容定員	学生数
文学部	密教学科	30	22	120	112
	人間学科	20	2	80	47
	計	50	24	200	159
大学院	密教学専攻 修士課程	13	4	26	12
	博士後期課程	3	3	9	4
	修士課程（通信教育課程）	20	26	40	144
	仏教学専攻 修士課程	8	0	16	2
	博士後期課程	3	0	9	1
	計	47	33	100	163
	別科	30	2	60	4

(2) 高野山高等学校全日制課程

全日制課程

区分	入学定員	入学者数	収容定員	生徒数
普通科	60	30	360	97
宗教科	20	11	90	23
計	80	41	450	120

令和元年5月1日現在

通信制課程

区分	入学定員	入学者数	収容定員	生徒数
普通科	900	15	900	36

令和元年5月1日現在

区分	転編入学者数	生徒数	内卒業生数
普通科	6	42	7

令和2年3月31日現在

(3) 高野山幼稚園（高野山こども園）

区分	収容定員	幼児数
こども園	76	60

5. 役員・教職員数（令和元年5月1日現在）

(1) 役員

役職名	氏名	現員	定数
理事長	添田 隆昭	1	1

役職名	現員	定数
理事	10	10
監事	3	3
評議員	21	21

(2) 教職員

①法人本部

区分	専任職員
事務局	3

②高野山大学

区分	学長	教授	准教授	講師	非常勤講師
教育職員	1	10	5	2	62

区分	専任職員 (契約含)	非常勤職員
事務職員	25	1

③高野山高等学校

全日制課程

区分	校長	教頭	専任教諭	非常勤講師
教育職員	1	2 (1)	15 (2)	15

区分	専任職員
事務職員	13

区分	非常勤職員
事務職員	2

※ () は通信制教職員数

④高野山幼稚園 (高野山こども園)

区分	園長	副園長	専任教諭	契約教諭	非常勤講師
教育職員	1	1	5	1	4

II. 事業の概要

1. 高野山学園法人本部

学園創立 133 周年を迎えた本学園は、学校法人全体のさらなる飛躍を目指し、本学園における様々な施策を行っている。

令和元年度の法人本部の主な取り組みとしては、以下のとおりである。

1. 理事会・学園運営のガバナンス強化

随時規程や校則・学則等の見直しを行っているが、今年度は令和 2 年 4 月 1 日施行の私立学校法改正に伴い寄附行為の変更が必要となった。そのため理事会・評議員会にて説明ののち、寄附行為の認可申請を 3 月に行った。

また私立学校法の改正に関連して中長期計画の策定及び公開が義務付けられたため、各部門の中長期計画策定をとりまとめ、第 1 期中期計画（2020 年度～2024 年度）について、理事会・評議員会を経たのちにホームページにて公開した。

2. 各部門の運営支援

各部門における施策において、寄附行為や諸規定、また一般的な法令に照らし問題がないか随時確認し、必要な支援を行っている。今年度においては長らく部門で固定されていた学園職員について部門間異動を実施、それに伴い業務の見直しを各部門で行うことで職員間の業務バランスの見直しを促した。

大学においては昨年度より教育学科設置準備室を中心に教育学科開設のための認可申請を行っており、法人本部は昨年度に引き続き寄附行為変更認可申請を担当した。今回は早期からの事前相談および提出様式の作成・見直し、また千代田学園・大学の設置準備室と協議を重ね 3 月提出分の申請書は受理されており、現在審査が行われている最中である。

高等学校においてはかねてより寄宿舍の耐震強度が問題視されてきたことから和歌山県の助成金制度を利用して建て替えを計画している。今年度はそのための設計・建設の業者選定および見積合わせを理事会にて執り行った。この計画に合わせて総本山金剛峯寺からの宗団寄付金についても協議を重ねている。

こども園部門では人員が不足しており園の運営に支障をきたしているため、委託元の高野町と現場から増員要請があり、大学と協議し 1 名を事務長補佐として異動することで事務職員の増員と教員の事務負担の軽減を実施した。

2. 高野山大学

(1) 事業の概要

高野山大学は、日本で初めて一般庶民に開かれた教育機関を構想した弘法大師・空海の思想に基づき誕生した大学であり、人間性に富んだ人材を育成し続け、卒業生は約1万人を数える。世界中の人々が集う高野山の地で、未来を担うリーダーを「新しい学び」で育てることに努めてきた。

令和元年度は、教育理念である『いのち』の営みを尊び、人間と環境・文化を理解し、人間性豊かで創造性にあふれた人材を育成する」に全教職員がしっかりと認識し、各部門の課題を実現あるいは解決していくことを目標として、大学運営を行った。具体的に、運営方針を表す標語として「学生ファースト」と「丁寧な指導と対応」を掲げ、それらの取り組みにより、学生満足度が高く、特色のある大学を目指している。

本学の特徴を打ち出すため、令和元年度より難波サテライト教室において密教学科の3年次編入生の受け入れを開始し、社会人を中心に本学の理念に基づいた密教教育を充実させることで、さらなる学びの充実を図った。

(2) 教育・研究および運営に関する改善・改革の取り組み

①密教学科

令和元年度より難波サテライト教室では密教学科の3年次編入生の受け入れを開始し、社会人を中心に本学の理念に基づいた密教教育を充実させることで、さらなる学びの充実を図った。

②人間学科

人間学科は教育内容を見直し、一昨年には「地域デザイン」「日本文化」「心理ケア」の3コースを設け、また昨年度からは「地域デザイン」「心理ケア」の2コースに集約した。学生がそれぞれのコースでの学びに充実感を持てるように講義内容及び学生指導の充実努めている。

③教育学科

令和3年4月から大阪府河内長野市に位置する大阪千代田短期大学・大阪暁光高校の校舎等の施設設備を借用して、新たに文学部教育学科を設置することを計画している。

教育こそが人間の根幹を成し、国家・社会の基盤を形成するという弘法大師空海の「綜芸種智の教育理念」の精神を受け継ぎ、人の育成に関わる教育者や、現代社会で喫緊の課題となっている心のケアに対応できる人材の養成が重要であるという認識にたち、教

育や保育の現場で活躍しうる実践力・人間力、地域の安心安全や活性化に貢献しうる人間力を備えた人材の育成を目指す。

従来の教育養成系大学とは異なった大胆なカリキュラム設計を行い、教育現場や地域での体験的学びを軸に、英語力の育成をはかり、小学校教育実習についても他大学にはない実習時間を十分確保したカリキュラム編成とした。

学科定員は 50 名を予定しているが、令和 3 年 4 月から人間学科の学生募集を停止し、人間学科定員 20 名を改組転換により教育学科に組み入れる。千代田短期大学キャンパス内に、教育学科準備室を設けて、教育学科の設置認可申請や教職課程認定申請を行なった。

令和 2 年度も引き続き、教育学科新設に向けて、準備を進めていく予定である。

④学生支援の強化

ア. 学生生活アンケートの実施

以前は数年に一度の頻度であった学生生活アンケートを、令和元年度より毎年行うこととし、学生の生活状況の把握に努めた。

イ. 学生相談

学生相談室は、スクールカウンセラーが来校する週 2 日間（水曜日・金曜日）設けており、学生のような悩み・相談に応じている。これまでは週 1 日であったが令和元年度後期より週 2 日となり、よりきめ細やかな支援の体制を整えた。それに伴い利用学生も増加した。

また、令和元年度は、学生の交流の場を設け、留学生、教職員を含め、ともに調理し鍋を囲み食べ、心と体を満腹にすることを目的とした食事会を催した。

ウ. 注意喚起

インフルエンザ、新型コロナウイルスなどの注意喚起から、学内の禁煙注意喚起など学生に向けての周知徹底を掲示、大学ウェブサイトなどを活用し行った。

エ. 保護者懇談会の実施

保護者懇談会を実施し、保護者との連携を図ることで学生サポートの強化に努めた。

オ. 留学生支援

日本語能力試験、就職支援、チューター制度、日本語コンテスト、留学生研修旅行などを通じて留学生の交流支援に力を入れた。

カ. メールアドレス付与

令和元年度に希望者に対して試験的にメールアドレスを付与し、情報リテラシー教育

を行った。令和2年度ではこれを全学生に対象を広げ、教職員との連絡を密にするるとともに、就職活動など学生の利便性の向上に努めた。

⑤奨学金制度による学生支援

令和元年度において、学生支援のために、下記の奨学金を給付した。

- ア. 高野山大学奨学金（第2種） 文学部2名
- イ. 高野山住職会奨学金 文学部2名 大学院3名
- ウ. 申徳会奨学金 文学部2名
- エ. 佐伯奨学金 文学部2名
- オ. 松浦禪朝奨学金 採用者なし
- カ. 高野山大学同窓会奨学金 文学部2名
- キ. 名越奨学金 文学部3名
- ク. 高野山大学社会人学生奨学金 文学部28名
- ケ. 高野山大学高野山真言宗後継者育成奨学金 専修学院出身者 文学部2名
- コ. 高野山真言宗徒弟奨学金 文学部44名
- サ. 高野山大学私費外国人留学生授業料減免 文学部12名 大学院4名
- シ. 高野山大学外国人留学生奨学金 採用者なし
- ス. 高野山大学同窓会海外交流助成金 文学部8名

⑥留学生受け入れ体制の構築

令和元年度において、全ての留学生について、入学金免除・授業料半額免除と規程を明確化したことにより、経済面の修学のサポートを整えた。

令和元年度の留学生入試において、2名の留学生に加えて、カンボジア王国シェムリアップ州国際日本文化学園からの紹介により、留学生特別入試を実施し、カンボジア学生2名を受け入れることが出来た。

⑦宗教教育課の取り組み

令和元年度における得度、受戒、加行、伝法灌頂の実績は、下記のとおりである。

- ア. 高野山学園合同得度式（於 総本山金剛峯寺）
令和元年度 大学の受者11名（男子9名うち一般1名、女子2名）
- イ. 受戒（於 真別処）
令和元年度 受者12名（男子9名、女子3名）
- ウ. 加行（於 真別処、専修学院尼僧部）
令和元年度 夏期加行 男子（前期5名（うち高校生1名）、後期4名）計9名

令和元年度 夏期加行女子（前期2名（うち高校生1名）、後期0名）計2名

令和元年度 春期加行男子（前期1名、後期3名）計4名

令和元年度 春期加行女子（後期1名、前期0名）計1名

エ. 伝法灌頂（於 専修学院）

令和元年度 受者7名（男子7名、女子0名）大学加行以外の学生は集計対象

⑧社会人受け入れ体制の構築

ア. 難波サテライト教室を活用し、社会人に学びの場を提供

イ. 社会人向け奨学金制度の導入により、働きながら学べる環境の提供

ウ. 名越康文講演会および高野山学園説明会の実施

エ. 東京別院での高野山大学連続講座の実施

オ. 入試に合わせた時期に進学相談会の開催

⑨他の学校法人や地域との連携（令和2年3月31日時点）

現在の連携については、下記のとおりである。令和元年度は、皇學館大学・河内長野市教育委員会との連携協定を結んだ。

ア. タイ国大学（Rajamangala University of Technology Rattanakosin）とMOU締結

イ. マハチュラロンコン大学（タイ）とMOU締結

ウ. マラサワラダ大学（インド）とMOU締結

エ. 学校法人千代田学園（大阪千代田短期大学・大阪暁光高校）との連携

オ. りら創造芸術高校との連携協定締結

カ. 河内長野市民大学「くろまろ塾」との連携（講座の提供）

キ. 高野町と連携し「高野山学」の講座開講

ク. 高野山高校との高大連携強化〈公開講座〉

ケ. (株)角濱ごまとうふ総本舗との連携

コ. 教育学科の新設計画に関連し、教員養成の発展及び地域の活性化に寄与することを目的に、以下の機関と連携

「(株)乗馬クラブクレイン」「農事組合法人 富田林南地区共同組合」「(公財)河内長野市講演緑化協会」「大阪府森林組合南河内支店」「(特非)里山ひだまりフォーム」「和泉体験農園」

「小山田小学校区まちづくり会」「(特非)森林ボランティアトモロス」「大阪府立花の文化園」

「河内長野市教育委員会」

サ. 和歌山大学との教育研究に関する連携

シ. 皇學館大学との連携

⑩ (株) フジキンの寄付金に基づく事業

令和元年度も(株)フジキン共催による高野山大学フジキン小川修平記念講座を開催した。日程は下記のとおりであった。

第14回 高野山大学フジキン小川修平記念講座

日時：令和元年11月16日(土)13時半～16時

於：なんばスカイオコンベンションホール7階ホール

講演1「太陽の脅威とスーパーフレア」

柴田一成(京都大学大学院理学研究科附属天文台教授)

講演2「私たちは類人猿とどこが違うのか」

更科功(東京大学総合研究博物館研究事業協力者・東京大学大学院講師)

⑪ 私立大学ブランディング事業の実施

私立大学研究ブランディング事業

「高野山研究における古絵図資料の可能性とその活用」

(説明会開催)

日時：平成31年4月25日 於：本学第二会議室・壇上伽藍

「古地図であるく高野山」サイトの報道機関向け説明会を開催

(シンポジウム開催)

日時：令和元年10月6日(日) 於：高野山大学難波サテライトキャンパス

第1部 基調講演

「高野の聖たち ー高野山一心院谷の場合ー」

山陰加春夫(高野山大学名誉教授)

第2部 特別講演

「太閤秀吉の高野参詣で新作上演された豊公能をめぐって」

小林健二(国文学研究資料館名誉教授)

第3部 パネルディスカッション

パネリスト：山陰加春夫(前掲)、佐藤隆彦(高野山大学副学長・密教文化研究所所長)、入谷和也(高野七口再生保存委員会事務局)、藤田実紀(株式会社Stroly)

コーディネーター：櫻木潤(高野山大学専任講師)

⑫ 図書館の取り組みについて

図書館においては、利用者本位の運営に心がけ、通常9時から18時30分の9時間30

分を開館時間とした。本学学生・教職員をはじめ同窓生や一般利用者への貸出・返却・レファレンスと、資料の発注・受入・整理等の他、下記の諸事業を図書館では展開した。

ア. 図書館報『それゆけ!としょかんだより』

各月、上記の図書館報を発行して、館内では紙媒体でのフリーペーパーで公にして、インターネット上では、図書館のホームページで順次、129号～133号発行までを公開した。そこでは、図書館長の論考をはじめ、図書館の近況やニュースを報じた。

イ. 『高野山大学図書館紀要』第4号の刊行

144頁・B5版の紀要を令和2年3月21日に刊行した。

ウ. 図書館戸田文化講座開催

令和元年度における同文化講座は「能楽入門」と題して、本学准教授の浜畑圭吾氏を講師開催した。

エ. 図書館茶話会開催

図書館の閲覧室において、本学裏千家茶道部主催で茶話会を開催した。

オ. ミニコーナー設置

閲覧室にミニコーナーを設け、「川端康成」、「夏旅」、「読書のすすめ特集」、「明智光秀」それぞれにつき、3ヶ月毎の関連図書の展示を開催した。

カ. 展示コーナー設置

閲覧室内の展示コーナーにおいて「高野山大学図書館所蔵高野山細見絵図」の絵図を展示した。

⑬密教文化研究所の取り組みについて

各事業の詳細な活動報告は次のとおり。

ア. 研究所研究会 活動実績

研究所員・研究員の研究成果発表及び学術的交流を趣旨として、2回の研究所研究会を開催した。

イ. 弘法大師著作研究会 活動実績

『声字実相義』の研究会を原則として月2回行った。

(刊行物)

『密教文化研究所紀要』別冊として『即身成仏義』の研究、『声字実相義』の研究の2冊を、令和2年3月に刊行した。

ウ. 南山教学研究会 活動実績

本研究会は高野山に伝わる論義書の研究・整理をすすめて、真言密教の展開を明らか

にして教学研究及び密教興隆を図り、合わせて現在も続けられている論義法会に資することを目的に活動を行う。

輪読会は3回実施し、各会の内容は「報身報土」、「心法色形」「十地仏果」とした。

真言教学研究会を高野山東京別院において講演会を開催した。講師は中西雄泰（高野山専修学院監事・本学非常勤講師）であり、演題は「中院流について」である。

大正大学において研究会を開催した。発表者は佐藤もな（帝京高等看護学院非常勤講師）、鈴木雄太（智山伝法院非常勤研究員）であり、講題は「真言密教の教主義」であった。

宗学連携事業として、勸学会期間中に同出仕者へ、三密双修についての講義を行った。

エ. チベット密教研究会

本研究会はテンジン・ウセル本学非常勤講師を中心に本学におけるチベット密教研究を推進することを目的としている。会員はウセル講師の他、藤田光寛名誉教授・乾龍仁学長・奥山直司副学長・奥田剛（チベット仏教サキャ派ケンポ）の5名である。研究会は28回（月2～4回）開催した。

オ. 聖フランシスコ・ザビエルの書簡に基づく宗教間対話研究プロジェクト

本研究会はイエズス会の宣教師のフランシスコ・ザビエルの書簡を題材として高野山大学（密教文化研究所）とシアトル大学との有志が共同研究を行い、ザビエルの日本滞在にどのような宗教間対話が行われていたかを検証することを目的とする。本年度は高野山側の研究者が中心となり、ザビエルの書簡を仏教学的なアプローチで多角的に検証した上で、学内研究会を4回、シアトル大学との共同研究会をweb会議で2回、さらにシアトル大学でカンファレンスが開催された。

カ. 刊行物

『密教文化研究所紀要』33号を刊行した。

キ. 巡礼遍路研究会（密教文化研究所協賛）

四国八十八ヶ所、西国三十三所等、日本国内ならびに世界各地の巡礼に関する研究・成果発表を行うと共に、会員相互の懇親を図ることを目的とする。

本年度は愛媛大学において、第6回研究発表会を実施した。

ク. 人権講演会（共催：高野山真言宗社会人権局）

本年度は高野山大学において、人権講演会を2回実施した。また、第1回講演録を高野山真言宗社会人権局と本学が刊行した。

ケ. 高野山霊宝館との博学連携プロジェクトの推進

霊宝館と高野山大学との博学連携プロジェクトとして霊宝館の所蔵する御影堂文書の資料をデジタル化し整理・保管・調査を進めた。

(3) 学生募集への取り組み

学生募集戦略として、密教学科、人間学科、社会人の三方向を対象とした学生募集の取り組みを行った。また、令和2年4月より文部科学省が実施する「高等教育の修学支援新制度」(授業料等減免および給付奨学金)の対象校となり、密教学科・教育学科については、経済的な理由で進学をあきらめていた学生層に対しても広報を行うことが可能となった。

①密教学科広報

ア. オープンキャンパス、シークレットキャンパスの実施

シークレットキャンパスについては密教を中心とした前年度から、一般層にも届くコンセプトに変更した。

イ. 高校訪問

高校訪問専門の職員を配置し、高校訪問数は前年度の290件から404件と139%増加した。

ウ. DM 発送

オープンキャンパス告知、進学相談会告知、入試告知等を行った。

エ. メールDM 発送

資料請求者に向けてオープンキャンパス告知、試験告知を行った。

オ. 資料配布

OC チラシ・ポスター：道の駅、山内、宗務支所

大学案内：宗務支所、同窓会、東京別院

リーフレット：専修学院

高野山大学ポスター：八十八箇所霊場、宗務支所

カ. 全真言宗寺院・本宗寺院発送

約9000件の全真言宗寺院にむけて資料請求用紙を送付した。また約2300件の本宗寺院にむけて大学案内を送付した。

キ. 高大連携

高野山大学と高野山高等学校共同で名越康文講演会・高野山大学説明会を実施した。

高野山高校の進学説明会において、本学の資料配布、説明を行った。

ク. 高野山時報への広告掲載

入試情報、OC情報を掲載した。

ケ. 受験情報誌への掲載

リクルート、JS コーポレーション、進研アド、ライセンスアカデミー、fromページ、マイナビに掲載した。リクルートの先輩企画では僧侶を目指す学生を掲載した。

②人間学科広報

ア. オープンキャンパス、シークレットキャンパスの実施

密教を中心とした前年度から、心理ケアや高野山に興味のある層にも届くコンセプトに変更した。

イ. 高校訪問

高校訪問専門の職員を配置し、高校訪問数は前年度の290件から404件と139%増加した。

ウ. DM 発送

オープンキャンパス告知、進学相談会告知、入試告知等を行った。

エ. メール DM 発送

資料請求者に向けてオープンキャンパス、試験告知した。

オ. 高大連携

高野山大学と高野山高等学校共同で名越康文講演会・高野山大学説明会を実施し、高野山高校の進学説明会において、本学の資料配布、説明を行った。

カ. 受験情報誌およびサイトへの掲載

リクルート、JS コーポレーション、進研アド、ライセンスアカデミー、fromページ、マイナビに掲載した。

キ. 講演会での営業

主に心理ケア、グリーンケアの講演会を委託された教員による資料配布および営業活動を行った。

③社会人広報

ア. 新聞広報

オープンキャンパス告知および入試告知を行った。

読売新聞、朝日新聞：10月、12月、1月、2月

毎日新聞：1月、2月

看護協会ニュースにむけて広告掲載を行った。

イ. インターネット広報

10月、1月、2月にフェイスブックにオープンキャンパスおよび入試告知を行った。

ウ. DM 発送

病院、介護施設、NPO 法人などにリーフレット、OC チラシを発送した。また、講演会、連続講座、シンポジウム等で収集した名簿にリーフレット、OC チラシを発送した。

エ. メール DM 発送

資料請求者に向けてオープンキャンパス告知、試験告知した。

オ. 連続講座、密教文化研究所、官学連携講座・フジキン講演会での資料配布

カ. 難波サテライト社会人対象オープンキャンパス

10月、1月、2月に実施した。

キ. 進学相談会の実施

ク. 難波サテライト教室での毎日オープンキャンパスの実施

ケ. 名越康文講演会および高野山学園説明会の実施

東京別院で実施することにより、高野山大学を知らない社会人層への浸透を図った。

コ. 東京別院での連続講座の実施

関東で高野山大学の学びを社会人に向け発信した。

以上の取り組みによる、令和2年度の入学生は下記のとおりである。

学部生：密教学科 12 名、人間学科 7 名、編入学：密教学科 3 名

難波：密教学科 5 名、人間学科 4 名

大学院修士：7 名、大学院博士：1 名、通信：24 名、別科：3 名

その結果、令和2年度の学生数は 146 名、定員充足率は 73%となった。

(4) 外部資金調達への取り組み

外部資金調達に向けて下記の3点について取り組んだ。

①寄付金の獲得

令和元年度に学園共通の寄付金リーフレットを作成、学報と同送した。引き続き案内ツールなどの検討・改善、ウェブサイトを随時更新し、寄付の現状を発信することにより、寄付金への理解促進を図り、強固な寄付金募集体制の確立を目指す。

②競争的資金の獲得

令和元年度より文科省科学研究費（科研費）への応募申請を必須とし、学内説明会を実施

する等、学外からの研究費増額に努めた。

③経常費補助金の獲得

令和元年度より定員充足率・教育の質に対する補助金の厳格化がなされた。

全教職員へのSD実施、障がい学生支援ガイドラインを定めることによって、補助金額の増加に努めた。ブランディング事業への補助金が令和元年度に終了することなど令和2年度の補助金はますます厳しくなることから、補助金増額につながる項目がないか継続的に検討し、担当部署と連携して補助金増額に努める。

3. 高野山高等学校

全日制課程普通科・宗教科

1 学校経営

- ① 「山椒は小粒でもピリリと辛い」をキャッチフレーズとして個々に応じた木目の細かい指導を目指している。限られた教員数の中で回しているため、校長も国語の教員であり、国語科目については通信制のスクーリング、また、全校生徒を対象の作文指導、入試小論文、面接指導などにあたった。加えて、宗教一般の授業も応援しており、持ち時間軽減に貢献した。
- ② 東京別院主監のご理解とご協力を得て、東京別院を学習センターの事務所・教室として無償で提供してもらっており、今後も継続して借用する予定である。宿泊も受け入れてもらい、経費節減につながった。
- ③ 信頼できる、健全な運営をしている塾を選定し、連携を深め、生徒獲得に繋げていった。一方的な学校説明に留まらず、「教育の未来について語る会」を設定し学習塾と膝を詰めて話し合い、信頼関係、連携を深める事が出来た。
- ④ 東京は通信制・全日制を問わず、巨大マーケットなので、市場の開拓に力を入れた。加えて、今後は地元の和歌山にも注力してゆくこととした。東京別院において私塾対象の教育講演会の開催を目指しているが、まだ実現していない。令和元年年 6 月に高野山大学と共催で名越康文先生を招き、教育講演会を開催し、大きな反響を得た。その後の大学、高校説明会につながる事が出来た。
- ⑤ 入学試験改革を行い、受験会場を 3 か所に増やし、自由選択性にした。また、試験日を変更した。和歌山県内私立高校の統一試験日の 2 月 1 日は本校と東京会場とし、大阪会場は 2 月 10 日として県内の他の私立高校と差別化した。入試の日程分散化は好評で、今後ともその成否について検証してき、生徒のニーズに応えるつもりだ。
- ⑥ 新たに奨学生制度を拡大改革した。地方寺院の住職からの要望も取り入れて制度を拡充した。30 年度から実施しており一定の成果を上げたが、授業料無償化という国の方針を受け、そのあり方を検討していく。
- ⑦ 本校には、正規職員が校長以下 17 人しかおらず、各自、校務分掌を数多く掛け持ちしており、校務多忙であるが、そんな中でも熱心に教育活動にあたっている。スクールバスの運行につ

いても、専任運転手一人だけでは不十分なので教頭、事務長、舎監、などが不足を補っている。職場環境の改善、福利厚生面の向上を進めていき、教職員のモチベーションが向上しており、ひいてはそれが生徒の指導に還元されている。

- ⑧ 職員会議・成績会議を定例化している。本校教職員間の情報の共有、共通理解を深めることにより、学校運営の円滑化が進んだ。
- ⑨ 学校要覧のサイズを変更し、見やすい体裁に改善した。募集要項も、魅力のあるものに改訂し、好評である。今後、更に本校の変革の状況が伝わるような内容に充実させていく。
- ⑩ 生徒の心身の健康を保持するために、29年度、スクールカウンセラーを導入している。養護教諭も30年度より導入し、心身の健康に寄与している。芸術科目も、音楽と書道だけなので美術を加え、選択肢を増やす。宗教科でも華道に加え、茶道を導入したいと考えている。
- ⑪ 校長は僧分であるので、宗門内各種団体との繋がりを活かし、教師研修会、特別伝道大会、寺族婦人会などで、本校のPR活動をさせてもらっている。30年度は、箱根で行われた東日本地区参与研修会に招かれ、1時間にわたって本校の状況報告をし、大きな反響を得た。今後も宗団関係の研修会・行事に積極的に足を運び、本校の魅力についてPRする計画である。
- ⑫ 1200年の歴史と伝統を持ち、世界文化遺産でもある宗教都市、高野山の静かな環境の中で学びたいという生徒を全国から発掘する。生徒数の伸び代はあると確信している。本年度も15都府県から生徒が来ている。
- ⑬ 今春の入試の結果、入学予定者が卒業生と同数であった。日頃の地道なPR活動を積み重ね、生徒数の増加を図ってゆく。
- ⑭ 耐震検査の結果幸いなことに、校舎は文科省の示すIS値0.7をクリアしている。ただし、2階西側の生徒昇降口上のみがわずかに下回っていた。従って校舎の全面建て替えは免かれた。寄宿舎2号館については震度6に耐えられないという結果が出ており、現在、本山のお力添えにより、建て替えに向けて動いている。今後は6月から基礎工事が始まり、その後本格的な工事に入っていく予定だ。
- ⑮ 保護者による「学校評価」と生徒による各教科担任に対する「授業評価」を導入し、現場にフィードバックして、学校経営、あるいは、授業の向上に反映している。「いじめのアンケート」も定期的実施している。

- ⑯ 「ZOOM」を取り入れ、テレビ会議が出来る体制を取っている。オンライン授業にも利用してゆく方針である。朝来て各人が、開けば、その日の行事・授業変更・職員の動向がわかる。情報の共有が可能となっている。
- ⑰ 大学との連携を進めていく。たとえば教育講演会の共催、学園祭の共同開催に向けて検討を深めてゆく。教育学科開設にも連携が可能となる。
- ⑱ インフルエンザ発生時には徒弟、親に引き取らせたが、本校は全国区で遠隔地の生徒もおり、引き取りが困難な向きもあるので、寄宿舎において面倒を見るという体制作りをしている。
- ⑲ 本年4月より、吹奏楽コースを立ち上げる。コースとすることで、他校との差別化が図れるし、より専門的な学習が出来る事が売りである。講師として音楽大学の教員を招くので、より高度な奏法の学習が期待できる。
- ⑳ 本年9月より、中国上海朝陽義塾日本国際高中の生徒を受け入れる計画である。日本の高校入学、大学進学を希望しており、その受け皿となる事を目指す。少子化による生徒減の穴埋めということだけではなく、中国人生徒の希望実現のお手伝いとともに、在校生たちがいながらにして国際交流が出来るというメリットがある。異文化交流の機会ともなる。高野山大学への進学という形での連携も可能となる。
- ㉑ 国際バカロレアコースの2年後開設に向けて取り組んでいる。これも県内高校に先んじて計画しており、他校と差別化が可能。外国の大学への進学もし易くなる。ただし、実現に向けてハードルが高いので、乗り越える努力が必要。これもクリアする事によってこそ優秀な生徒募集が可能となる。

2 教育活動

- ① 全校朝礼の厳格化（時間通りに始め、内容を充実させ、時間内に終了）のため、時間割を大幅に変革した。
- ② ①に伴い、読書の機会を担保するために『小野文庫』を立ち上げた。各学期1回、全生徒に希望図書を読み全員に図書を提供している。図書購入基金は東日本地区宗務支所協議会を中心に支援をいただいている。今後、さらに読書指導を充実させていき、読書習慣を身に付けさせたい。
- ③ 野球部については、技術面・精神面の強化向上のために、監督として岐阜出身のベテラン

伊藤周作氏、野球部長としては本校OBであり、今春、和歌山市立日進中学校校長を退職した西脇仁氏に就任してもらった。

- ④ 女子ハンドボール部については、和歌山1位として近畿大会に進出している。指導者は若いですが、有力選手を地元から大勢集めており、令和元年8月に熊本で開催されたインターハイに出場を果たした。今後も県の代表として近畿大会、全国大会への出場を目指し、本校の広告塔となってくれることを期待している
- ⑤ ネパール人の生徒が本校宗教科に在学している。寄宿舎のある本校で仏教を勉強したいという。今後、こうしたケースが考えられる。帰国子女の受け入れにも取り組んでいく。寄宿舎があるのが強みだ。海外子女教育振興財団と連携している。また、本校は多様な生徒が入学、協調し合って学校生活、寄宿舎生活を送っており、帰国子女が生活するには最適な環境である。
- ⑥ 出席常ならぬ生徒、遅刻の多い生徒を本人の希望により寄宿舎に入らせて、基本的な生活習慣の確立、学業の向上に努めさせる積極的な指導をしている。生徒に寄り添い、個々に対応したきめの細かい指導を今後も継続する。
- ⑦ 生徒は、普段、変化の少ない閉鎖的な環境の中にいるので、生活単元的な行事を取り入れ、生活にアクセントをつけさせる方途を計画して行く。
- ⑧ ほとんどの生徒が、携帯電話を所有しているので、希望生徒には登録させて、生徒に必要な情報を提供するシステムの構築を進めた。新型コロナ肺炎の状況に鑑みてICT教育を推進する。
- ⑨ 本校宗教科の生徒による音楽法会、ご詠歌、宗教舞踊などを、広く一般の人に見てもらうために東京別院の本堂などで音楽法要・御詠歌・宗教舞踊などを発表できたら、生徒も励みになる。本校のPR、ひいては、宗団のPRにつながる。今後の課題である。

3 主な年間行事を下記のとおり実施した

4月	入学式、新入生金剛峯寺参拝、始業式、全国奉詠舞大会参加 進路ガイダンス、遠足 (USJ)
5月	結縁灌頂出仕、差別戒名追善法会参列、中間考査

	音楽法会、育友会総会、教育実習
6月	集団得度式、授戒、青葉まつり、高校総体、
7月	期末考査、僧堂研修、三者面談、終業式、学業不振者補習、夏期講習
8月	県私学研修会、夏期講習、進学就職者対象補習、体験入学入寮、始業式 通信制集中スクーリング
9月	体育大会、教育講演会、通信制前期卒業式
10月	通信制後期入学式、中間考査、結縁灌頂出仕、明神社大祭 体験入学、四国遍路、体験入学入寮
11月	避難訓練、南嶺祭（文化祭）、校内マラソン大会、進路ガイダンス AO入学試験、三者面談
12月	期末考査、公開授業、追悼法会、体験入学入寮、球技大会 公開実力試験（中学生対象）、AO入学試験、三者面談 学業不振者補習、冬期講習、通信制集中スクーリング
1月	寒行托鉢、一般入学試験（本校・東京）、スキー実習
2月	海外研修、えひめ丸慰霊法要、一般入学試験（大阪） 常楽会、卒業式、進路ガイダンス
3月	期末考査、通信制卒業式、海外研修、学業不振者補習、春期講習 入学試験（1.5次 2次）、新入生対象説明会

4 ボランティア活動

平成25年度より報恩日に小グループに分けて金剛峯寺清掃奉仕を行う。

各種募金活動に積極的に参加したり、高野山こども園や高野山小学校を訪問し、読み聞かせの時間を持ったり、レクレーション等を通して交流を図る。

青葉祭や明神社大祭に全校生徒で参加し、地域の方々との交流を図り、地域の行事の活性化に寄与する。

5 生徒募集活動

(1) 学校説明会

※中学校 校長会対象

- ① 和歌山市中学校合同説明会
- ② 伊都地方中学校合同説明会
- ③ 泉南地区中学校合同説明会
- ④ 高野山中学校 説明会
- ⑤ 伊都橋本地区中学校長との懇談会
- ⑥ 那賀地方中学校長との懇談会
- ⑦ 奈良県中学校長会合同説明会

※学習塾 各種団体対象

- ① 五ツ木書房主催私立学校合同進学説明会
- ② 和歌山県私塾協同組合主催私立学校合同進学説明会
- ③ 泉州私塾連合会主催私立学校合同進学説明会
- ④ 中和会進学相談会
- ⑤ 東京私塾協同組合懇談会
- ⑥ 全国学習塾協会懇談会
- ⑦ 教育と進路を考える会主催私立学校合同進学説明会
- ⑧ 全国私立寮制学校協議会説明会 名古屋、大阪、横浜、東京4会場参加
- ⑨ 帰国子女のための学校説明会

※教育講演会

- ① 伊都橋本地区中学校対象教育講演会
- ② 教育講演会（大阪会場・和歌山会場）

※その他

- ① 中学生との合同練習会（ハンドボール部）

- ② 寺族婦人研修会 高野山真言宗各地区の教師研修会
東京別院万灯万華会 特別伝道大会 等の本山行事についての説明
- ③ 中学校訪問・塾訪問（通年）

(2) 体験入学・入寮

第1回： 8月24日・25日

第2回：10月19日・20日

第3回：12月 7日・ 8日

(3) 公開授業

12月8日（追悼法会と共に）

(4) 教育講演会

大 阪：9月

和歌山：9月

東 京：6月

6 継続事業

(1) 生徒への支援

生徒のこころのケアを行うためにスクールカウンセラーを週1日駐在し、生徒への支援の充実に努めた。また、今年度はかねてよりの懸案であった養護講師を採用し、週3日ではあるが、スクールカウンセラーと共に生徒の心身の健康を保持する事が出来た。

寄宿舎生は3食、通学生は昼食のみではあるが、給食制度を行っている。栄養士の管理の下バランスの取れた食事を生徒に提供している。

(2) 通学の利便性の向上

橋本駅から本校間のスクールバスの運行を往路1便、復路2便行っており、生徒の通学の安全や利便性の充実に努めた。

(3) 生徒への学習支援

インターネットを利用した学習支援として、京都新聞主催の「うちべんネット」を利

用し、普通科特別進学コースと宗教科Ⅱ類の生徒の学習支援を図った。

新入生の中で必要と判断した生徒に対して学力の補充の為に「学びなおし」の補習を1学期の放課後を利用して実施。また不十分な生徒には延長して指導を行った。

長期休暇には各学期の学習が不十分だった生徒に対して補習授業を行い学力の定着を図った。

特別進学コースは春期講習・夏期講習・冬期講習を行い、学力の更なる向上を目指した。

(4) 特任講師の起用による生徒への支援

作家・高野山真言宗僧侶である家田荘子先生に生徒に対し、作家としての豊富な経験を基に指導していただいた。

(5) 高野町との連携及び高野山内開催イベントへの参画

高野町の防災計画や災害対策の施策に積極的に参画してゆく。具体的には耐震診断結果が良好であった校舎棟を避難場所として提供用意がある。また、町が保有する災害備蓄品の備蓄場所としても可能なスペースを提供する事で調整を進める。その他、高野山内で開催されるイベントへの協力として、令和元年6月初旬開催の「高野山龍神温泉ウルトラマラソン」のスタート地点として教室の一部、体育館等を貸し出す事で調整している。因みに仁坂吉伸和歌山県知事が、大会当日の午前3時からの開会式に参加される為、来校された。

広域通信制課程普通科

1. 運営方針

- (1) 広域制なので日本全国どこからでも入学できる。広告手段として高野山真言宗の寺院ネットワークを活用する。具体的には高野山教報、高野山高校同窓会を中心に働きかけ認知度を上げ、寺院子弟をはじめ檀信徒から就学希望者を募る。
- (2) 高野山高校通信制課程の構築に際し、単に生徒数の増大だけを考えるのではなく、高野山全体の繁栄に貢献できるような視点から計画運営するように心がける。具体的には、通信制の生徒数増加に伴い、高野山訪問者がその保護者、関係者等の同伴により増加し、また宿坊

等の利用も増えるように配慮する。

- (3) 教育問題に関心のある本宗寺院や塾にサポート校となっていただくことで、本校通信制と連携した生徒育成を可能にする。
- (4) 教育問題に関心を持っていただける各寺院への認知度を上げるため、各種講習会などで全日制同様告知を展開する。
- (5) 普段は高野山内寺院に止宿し、お手伝いをしながらスクーリング等必要な時だけ登校するようなシステムを寺院と連携しながら検討する。
- (6) 通信教育希望者はインターネットでの情報収集が多く考えられるので、HPでの発信力を強化する。
- (7) 全日制との連携強化・情報交流を更に進め、全日制での就学が難しくなった生徒の受け入れを積極的に行う。高野山高校に入学した生徒は退学せずにさまざまな方法を用いて学校全体として卒業を目指すことを前提とする。
- (8) 高野山高校に就学する意義を明確にするために大師伝などの受講は必修とする。
- (9) 現在サポート校として加盟しているのは関西地区20団体、関東地区9団体(計29団体)である。今後は情報の共有や生徒への教育、生徒募集での協力体制の連携を更に深める。
- (10) 通信制の場合、年度途中からの転入学、編入学の生徒が見込めるため、それらの入学につなげられるよう広報活動を行う。

2. 生徒数

	平成30年5月	平成30年度末	令和元年5月	令和元年度末
本校	12名	22名	24名	28名
東京校	8名	11名	12名	14名
合計	20名	33名	36名	42名

※ 年度途中での転入学生・編入学生による増加が見込まれる

※ 令和2年5月1日現在36名(内2名休学)

3. 事業報告

(1) 生徒募集

- ・入学相談・説明会

大阪学習センター・東京学習センターを利用して個別の入学相談会を実施し、途中転入や編入学生の入学につなげた。

- ・中学校及び塾やサポート校訪問

- ・通信制高校合同説明会

6月1日, 6月22日, 9月29日, 11月24日 (ブース参加)

- ・通信制高校情報誌(学びリンク社 朝日広告社)掲載

- ・全国の真言宗各寺院, 近畿圏の中学校・学習塾, 東京23区の公立中学校・高等学校, 四国4県中学校, 横浜市内中学校等への入学案内等送付

- ・『高野山教報』への募集広告掲載

本校は完全な広域制なので日本全国どこからでも入学できる。広告手段として高野山真言宗寺院のネットワークを活用するように努力した。

(2) スクーリング・特別活動・学習指導 等

基本的には、できるだけ多く高野山高校本校での集中スクーリングに参加できるように東京校在籍の生徒にも勧誘をした。同時に保護者、生徒関係者も高野山に来ていただけるように告知勧誘を行った。

高野山霊宝館のご協力の下、町石の拓本採取や霊宝館見学の特別活動を実施。また、角濱ごまとうふ総本舗様のご協力で、ごま豆腐作りや試食体験も行い、地域との関わりを持った特別活動ができた。

また、校外学習の一つとして、全日制の遠足と日を合わせ、ユニバーサルスタジオジャパンへの遠足も行った。

A. スクーリング

本校(高野山)にて実施

夏期に4日間、冬季に3日間

高野山内の宿坊寺院や霊宝館、企業のご協力で特別活動を通じて地域交流

東京学習センター

夏期に4日間、冬季に3日間

東京学習センター所属の生徒で、夏期の本校でのスクーリングに参加できるものは、3日間本校でのスクーリングに参加

※上記の他にも、在校生の状況に合わせて、本校と各学習センターにて個別にスク

ーリングを実施

B. 特別活動

廟参，金剛峯寺見学，写経体験，写仏体験，宿坊寺院での勤行参加

霊宝館文化財ふれあい体験，ごま豆腐作り体験，USJへの遠足

東京学習センター所属生徒は高野山で夏期スクーリングを受講した生徒は、校外学習として、帰京時に京都研修を実施

C. 学習センターでの学習指導等

大阪学習センター

原則週1回午前中に開講。レポートや視聴報告書の作成指導や生活状況の確認や指導を行ったが、参加できる生徒は大阪在住の生徒が中心であり、午前中での指導であったため、参加者は少数であった。今後は更に生徒が利用しやすい時間帯を設定する必要がある。

東京学習センター

通常的に通学できる生徒には学習環境を提供。レポートや視聴報告書の作成指導や生活状況の確認や指導や苦手科目、または受験に対して教科指導などを行った。

D. その他

本校においては、大阪学習センターでの学習指導や生活状況の指導などが、一部の生徒に対してしかできないので、メールや電話を使って生徒との情報交換や学習指導を実施した。

(3) 単位認定試験

・前期

- ・本校 8月実施
- ・大阪学習センター 8月実施
- ・東京学習センター 9月実施

・後期

- ・本校 2月実施
- ・大阪学習センター 2月実施
- ・東京学習センター 3月実施

※ 今年度よりレポート・視聴報告書・スクーリングが前期後期それぞれの期日までに完了者のみが受験できるようしたため、後期での受験科目が増える傾向にあったため、前期と分

散して受験できるよう、より計画的に学習を進めるように指導が必要である。

(4) サポート校の組織化

通信制課程の場合、生徒募集に塾等と提携して生徒募集を効果的に実施できることが多い。そのために業務提携覚書を交わしてサポート校になってもらっている。本校は全国どこからでも募集可能なので全国でサポート校を募集している。現在、関東、近畿にまたいで29校（団体）のサポート校を組織している。

また、サポート校の中から、本校の生徒のみを対象とした指導体制（キャンパス）に移行を試みる提案も出ている。

(5) 令和元年度 進路実績（7名卒業のうち社会人生徒1名）

<進学>

帝塚山大学 創価大学

<就職>

恵和株式会社

※ 上記以外の生徒は、社会人生徒1名。体調不良のため受験できなかった者2名。国公立大学受験も合格に至らず、次年度受験予定1名。

4. 今後の課題

現在本校では教職員が全日制と通信制の指導を兼職しており、全日制の職務の時間を割いて、通信制の対応しているのが現実である。今後生徒数増加に従い、高野山というブランドを汚さないきめの細かい指導を継続的に行うためにも、通信制の運営方法の再検討、授業料等の納付金の変更、通信制専属の教員、事務職員の整備が考えられる。

(1) 大阪学習センターについて

- ・大阪府では他府県に本校のある学校は無償化につながる大阪府独自の就学支援金等の優遇措置が受けられないので生徒募集が不利であった。しかし、令和2年度以降は国の就学支援金制度が拡大される。授業料の徴収方法は各校様々であり、年度初めに授業料と就学支援金を相殺して徴収する学校もみられる。本校の場合、就学支援金の生徒への還元は年度末となることから、新入学生にとっては、年度初めに他校より多くの費用が必要となるが、就学支援

金の制度を丁寧に説明し、理解いただけるよう努める必要がある。しかし、西日本での高野山ブランドの知名度は高い。そのため西日本地区の出先機関として大阪学習センター（高野山大学難波サテライト教室）を拠点として教育相談などの窓口としたい。また、通信制在学生への充実した教育活動を展開するため、原則週1回、本校教員から直接指導を受けることが出来る体制を強化する。

- ・高校卒業資格以外にもダブルスクールを利用して、各種資格の取得や専門的な技能の習得ができるよう、各種団体との連携を図る。
- ・高野山大学難波サテライトで行なわれている各種講義や講座の中から、通信制生徒が受講できるものを精査し導入することを検討する。

(2) 東京学習センターについて

- ・高野山東京別院の全面的協力をいただき東日本地区への生徒募集拠点となった。港区高輪の地の利と、高野山の知名度と特色を発揮して広報活動を活発に行いたい。スクーリング等に関して、夏期集中スクーリングは出来る限り本校を利用するが、他方では本校への依存度を少なくして東京別院でも完結できる内容を準備し、全国の学生が就学しやすいように配慮する。
- ・毎日コース、特定曜日コース等を設置し、授業以外は徴収せず指導していることの周知を図る。現在、東京学習センター長と1名の非常勤講師が日常の業務にあたっているが、生徒募集活動、日常の教育活動担当者及びスクーリング担当非常勤講師の充実が必要である。

(3) 和歌山キャンパスの設置

サポート校のひとつである「サクセスゼミ」（北島悠悠塾長）が和歌山市内において、本校の通信制の生徒のみを対処とした学習施設を開設予定。和歌山県内を中心として、新入学・転入学・編入学の生徒の積極的な募集・学習指導を目的としている。今後、連携を強め生徒募集活動に繋げていきたい。

- (4) 毎年生徒募集の目標値を定めその実現に向かって努力する。そのためには高野山高校全

体で協力する体制が必要である。人員の増員は現状では厳しいが、通信制のシステムは色々な可能性があるので、ICT教育の導入や各種教育団体等との提携を積極的にすすめていく。また、本校は後発であるので他校やその他の研修を行い研鑽を積み、本校の教育活動に活かしていく。

- (5) 新型コロナウイルスの拡大防止や、緊急事態宣言等の影響により、年度末の説明会等や新年度の訪問活動が中止となり、新入生や転入学や編入学希望者へのアプローチが出来なかった。規制が緩和された後に、十分な感染防止の対策をとりながらも学校訪問や説明会参加等の生徒募集活動に積極的に取り組む。

4. 高野山幼稚園（高野山こども園）

令和元年度から指定管理契約を3年間延長して、高野町との公設民営の形態で指定管理者として「高野山こども園」の運営を請け負い、1歳児から5歳児を対象とした長時間保育、3歳児から5歳児のみを対象とした短時間保育、預かり保育、長時間保育児を対象とした延長保育を実施した。

（1）事業の概要

①教育に関する取り組み

■教育内容

健康・人間関係・環境・言葉・表現の5領域並びに、道徳的・芸術的・宗教的情操教育を取り入れた教育を行っている。

■早朝保育と延長保育の実施

園児に対して、午前7時半からの早朝保育や午後5時以降の延長保育も行った。こども園として地域の子育て支援の主体として活動している。

■宗教教育

高野山という地域の持つ歴史的・風土的特性にも考慮した形で宗教的・道徳的な要素を加味した教育・保育を実施した。

②運営に関する取り組み

■和歌山県・高野町との協議

和歌山県・高野町と連携し、業務・運営に関する事項の改善に努めてきた。

■施設・設備の環境整備

高野町との協議の中で積極的に施設の整備や改善を要望してきたが、全てが改善されたわけではなく、今後も高野町との協議の中で積極的に施設の整備や改善を進めていく。

令和元年度は、園送迎バス運行の業者委託の継続、猛暑日対策のため保育室へのエアコン（2台）の設置、遊戯室遮光カーテンの取換え、保育室・遊戯室への監視カメラ（6台）増設、プールの設置場所を広い場所へ移動、感染症対策として加湿式空気清浄機（2台）の入替えをして施設の整備・改善を行った。

（2）今後の課題

現在は、公設民営方式として幼保一体の事業を行っているが、公設民営方式での学園の特色を生かした教育・保育の実施や創意工夫をさらに進める可能性を探ることが課題である。また、幼稚園教諭・保育士の有資格者の確保・増員は急務である。